

国指定史跡

志波城跡

第 96 次発掘調査 現地説明会 資料



志波城跡位置図 (1 : 50,000)

2003年11月22日(土)

盛岡市教育委員会

1 はじめに

史跡志波城跡は、盛岡市南西部の下太田方八丁地内他に所在する、延暦 22 年(803 年)に坂上田村麻呂によって造営された陸奥国最北の城柵遺跡です。

志波城跡の発掘調査は、「第Ⅱ期保存整備事業」にともない、政庁及びその周辺域の調査を継続して実施しています。「政庁」域ではこれまでに、正殿・東脇殿・西脇殿・南門・北門・東門・西門・他、計 18 棟の掘立柱建物跡やそのほかの遺構が確認されています。また、政庁周辺の「官衙域」の調査も行っており、掘立柱建物跡をはじめ竪穴住居跡などが確認されています。

盛岡市教育委員会では、平成 5 年より復元整備工事を開始し、平成 9 年には「志波城古代公園」として開園しました。散策の場や気軽に歴史と触れ合える公園として、年間 1 万 4 千人ほどの来場者をかぞえています。平成 15 年(2003 年)は、志波城が造営されてから 1200 年目となり、様々な記念事業を「志波城古代公園」を会場に実施してきました。

特に、この 10 月には政庁南門や政庁築地塀の復元工事が完成し、よりいっそう 1200 年前の志波城の姿を体感できるようになりました。

2 志波城跡の概要

古代、東北の人々はエミシと呼ばれ、朝廷と交流や争いを繰り返していました。

平安時代、桓武天皇の時代、坂上田村麻呂はアテルイらエミシ軍との戦いに勝利し、802 年に胆沢城(水沢市)を、そして翌 803 年、盛岡の地に「志波城」を造営しました。

東北に 20 数箇所築かれた「城柵」(行政府)のうち、陸奥国最北端に位置する志波城は、国府多賀城(宮城県)に匹敵する規模を誇りました。内部には政庁や官衙建物、兵舎や工房が整然と建ち並び、多くのエミシ達が朝貢や交流に訪れたと考えられます。時の政府が、この盛岡の地に最大規模の城柵を築いたのは、盛岡が河川の合流地点という肥沃な大地であることや、出羽(日本海側)や太平洋側、東北北部への交通の要衝であったためと考えられています。平安時代から現在に至るまで、この盛岡は北東北の中心として栄えていたことがうかがえます。

しかし、志波城は、北を流れる雫石川の度重なる氾濫の被害を受けたことから、およそ 10 年で徳丹城(矢巾町)へ移転してしまいます。城内の主な建物は解体され、雫石川と北上川を利用し運ばれたと考えられます。これ以降、志波城をしのぐ規模の城柵は築かれることはありませんでした。

志波城は「日本紀略」など当時の記録にはあるものの、長い間所在地が不明でした。

昭和 50 年代以前、今の志波城跡の場所は「太田方八丁遺跡」と呼ばれ「前九年合戦」(1051~62 年)時の源氏の陣場跡だと言い伝えられてきましたが、昭和 30 年代初めの岩手大学板橋源教授の調査(中太田吉原地内)によって、古代の城柵跡ではないかと考えられるようになりました。そして昭和 51 年、東北自動車道建設にともなう発掘調査で築地塀跡や多くの竪穴住居跡が発見され、その後の範囲確認調査によって、志波城跡であることが確認されました。東北地方の古代史を考える上で欠かせない重要な遺跡であることから、昭和 59 年に国の史跡となりました。現在でも調査・研究は進められ、その成果をもとに保存・復元・整備が進められています。

3 志波城跡の構造

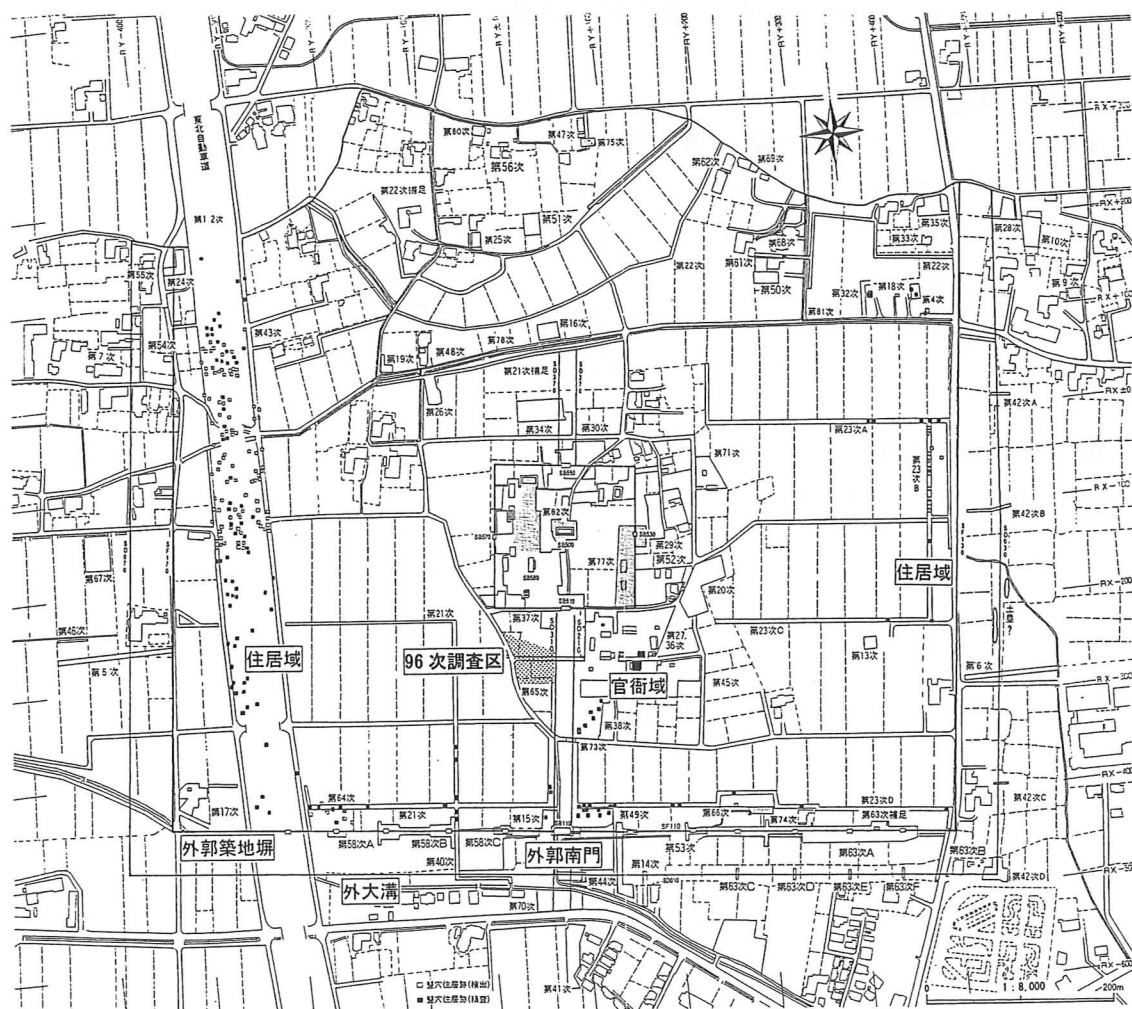
□立地

- ・北上川と雫石川のつくりだす沖積段丘面上に立地
- ・南の胆沢地方、西の秋田(出羽国)方面などへ通じる交通の要衝
- ・当時の雫石川は、志波城跡に近接していた
- ・城内北部には、小河川が入り込んでいた

□規模と構造

- ・外 郭 840m四方の築地塀と928m四方の外大溝により二重に区画
築地塀には約60m間隔で櫓
- ・政 庁 城内中央南寄りには、150m四方を築地塀で区画
築地塀の東西南北各々中央に門
正殿・東脇殿・西脇殿をはじめとした建物が整然と並ぶ
中央の広場は66m四方の広さ(儀式空間)
- ・官衙域 政庁周辺の建物群(実務地区)
- ・竪穴住居群 外郭築地塀より約108m(一町)内側沿いに帯状に密集
城内に1300~2000棟あったと考えられる(兵舎・工房など)

※外郭規模は国府多賀城に匹敵(八町四方)。政庁規模は城柵で最大級。



志波城跡全体図 (1:8,000)

4 第 96 次発掘調査

□概要

- ・調査目的 南西官衙域の内容確認
- ・調査期間 平成15年10月20日～11月末(予定)
- ・検出遺構 掘立柱建物跡3棟、溝跡2条、土坑、ピット
- ・出土遺物 須恵器・あかやき土器・土師器 等

□内容

本調査区は政庁南西側の官衙域にあたります。すぐ東側には、南大路が南北にはしっています。
標高は約131mをはかり、東から西へ若干傾斜しています。
調査区内の南部や西端は、大きく攪乱されていました。

(※ 1尺≒30cm)

・SB249 掘立柱建物跡

構造と規模 : 桁行5間・梁間2間、東西棟、
桁行総長12.0m(40尺)・2.4m(8尺)等間
梁間総長 5.1m(17尺)・2.55m(8.5尺)等間
柱 : 立腐れか(?)。(調査中)
備考 : 第88次調査(平成12年度)時に北半部を確認。
掘方より9世紀初頭の土器の破片が出土。

・SB250 掘立柱建物跡

構造と規模 : 桁行4間・梁間2間、東西棟、
桁行総長 9.0m(30尺)・2.25m(7.5尺)等間
梁間総長 4.5m(15尺)・2.25m(7.5尺)等間
柱 : 立腐れか(?)。(調査中)
備考 : 足場穴と考えられる小ピットを建物内外に確認。
掘方より9世紀初頭の土器の破片が出土。

・SB251 掘立柱建物跡

構造と規模 : 桁行3間・梁間2間(?)、南北棟、
桁行総長 6.3m(21尺)・2.1m(7尺)等間
梁間総長 5.1m(17尺)・2.25m(7.5尺)等間
柱 : 柱の痕跡、抜取穴は確認できない。掘方は人為堆積(粗い版築状)。
備考 : 掘方埋土上層に焼土塊が堆積しているものもある。
埋土上層より、土器の破片が出土。
⇒掘方1・2・3・6・7・8を半裁したところ、柱痕跡や抜取穴が確認できず、すべて人為的に埋め戻されていることが確認された。(調査中)
⇒2×3間の建物分の掘方が確認できない。
以上のことから、掘方を掘ったものの、建築されなかった建物の可能性がある。

- ・SD271 溝跡 SB251掘方3より新しい溝跡。埋土中に白色火山灰を含む。
- ・SD334 溝跡 SB250掘方1・6・8より新しい溝跡。埋土中に白色火山灰を含む。
- ・土坑、小ピット 調査中

5 まとめ

今回の調査では、南西官衙域の内容を確認しました。

南西官衙域は、南東官衙域と対称にはなっておらず、遺構の密度も薄いことがわかりました。官衙としての使われ方の違いと考えられます。

南西官衙域ではこれまでの調査で、掘立柱建物跡3棟、竪穴住居跡2棟、土坑、溝跡などを検出しています。

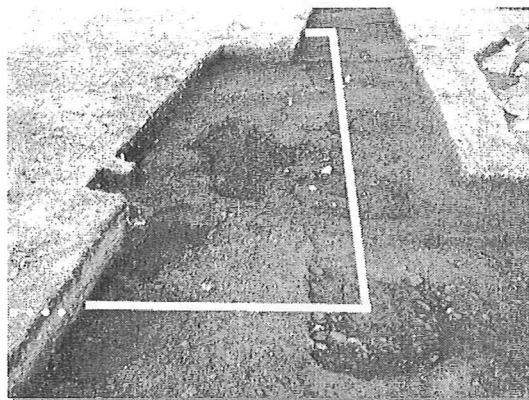
SB249、SB250掘立柱建物跡はほぼ平行に並んで検出されました。また、SB251掘立柱建物跡は、掘方の数や深さ、埋土の状況より、建築途中で放棄された建物の可能性があります。

今回検出した2条の溝跡は、志波城よりも新しいものと考えられます。

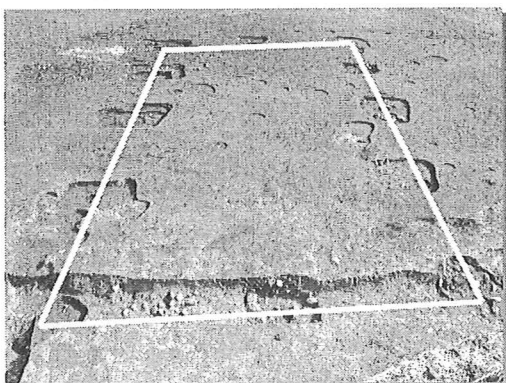
今後は、志波城跡の南西官衙域の広がりについての確認や政庁周辺の官衙域の様相を明らかにしていくこと、政庁官衙域以外の内容の確認が必要と考えられます。



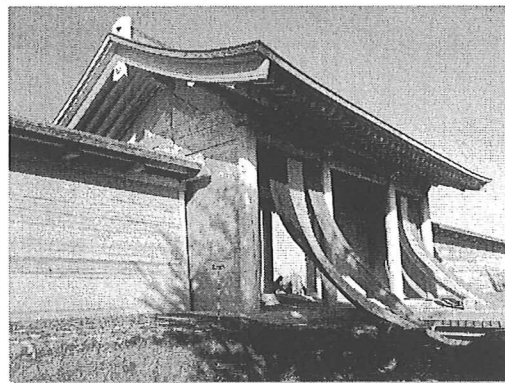
発掘調査風景



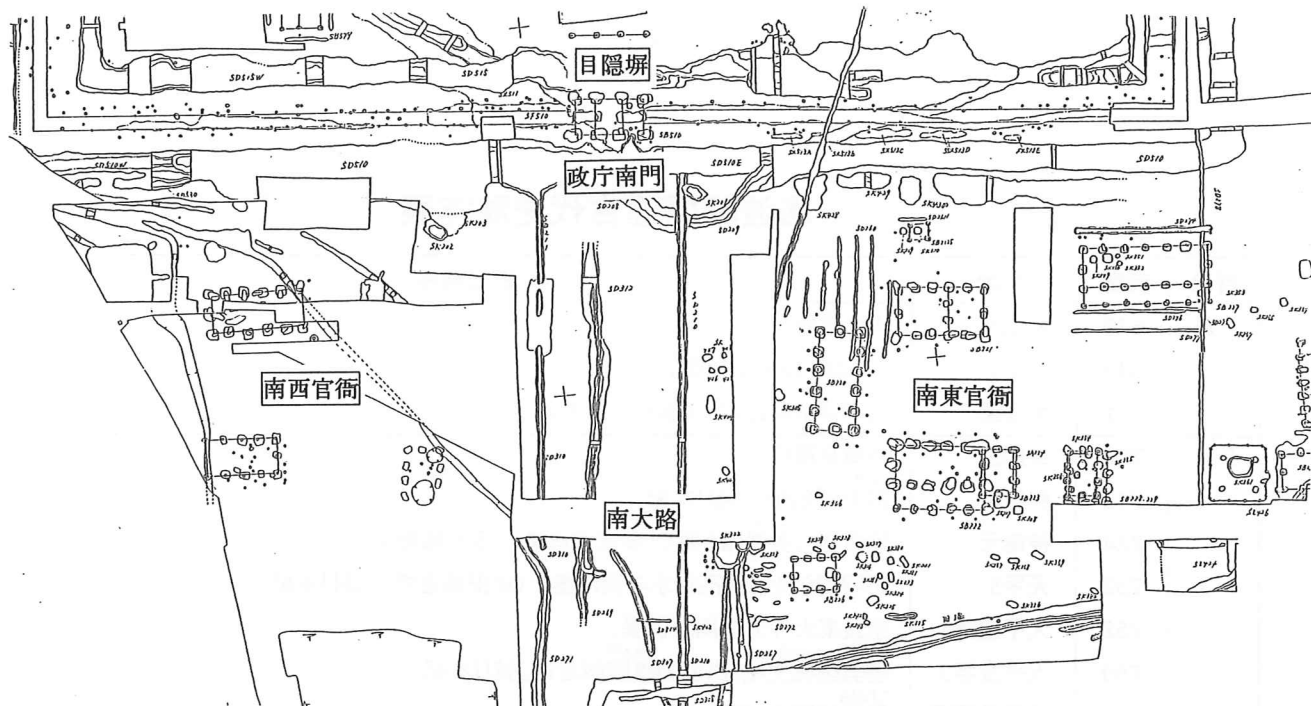
SB249掘立柱建物跡(西から)



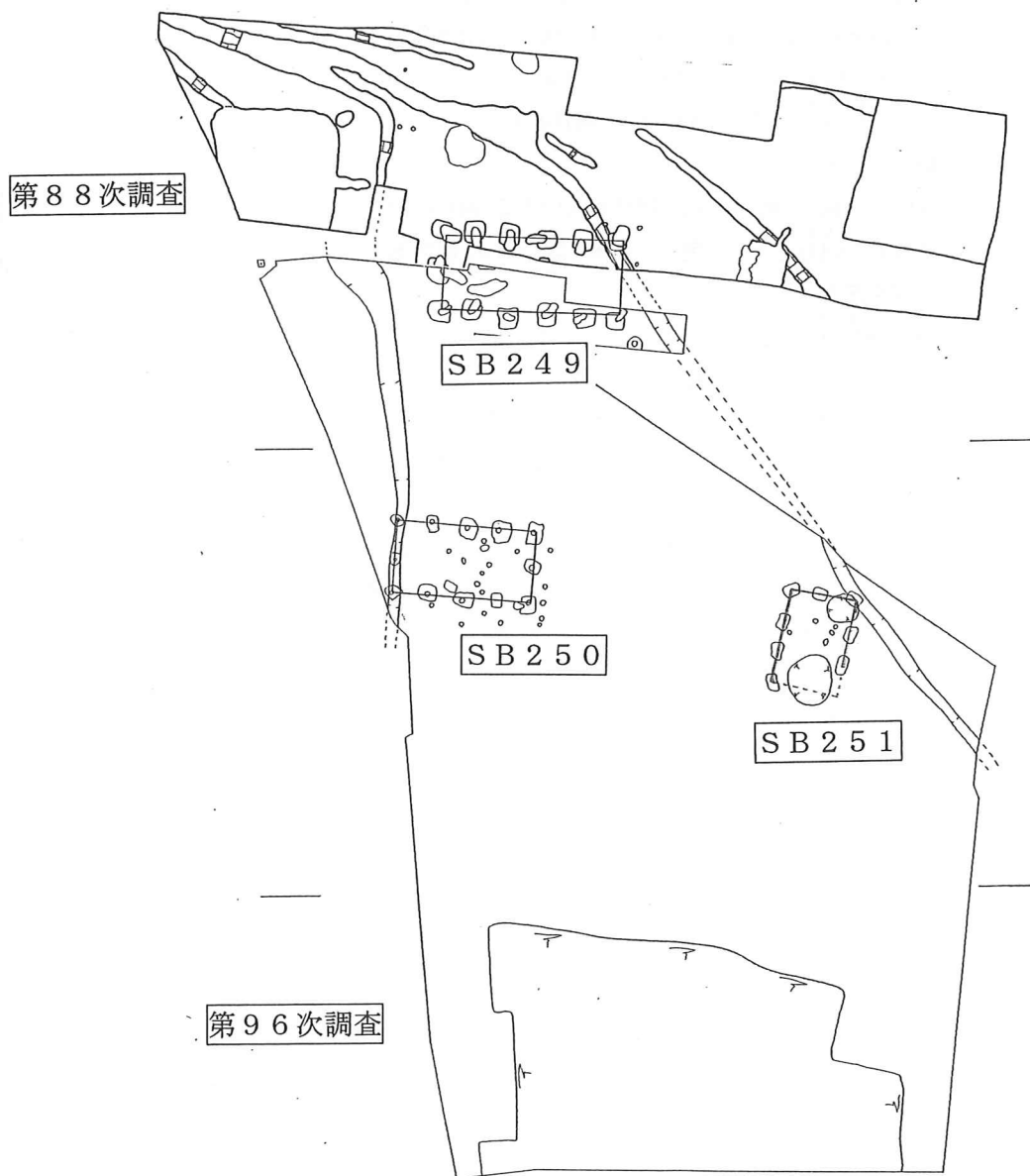
SB250掘立柱建物跡(西から)



復元された政庁南門



官衙域全体図 (1:1000)



※平面図は11月19日現在の状況です。
図中の掘方の状況など、今後調査の進捗によって変わる可能性があります。

南西官衙域全体図 (1:500)

志波城関連古代史略年表

時代	西暦	和暦	事項・出典等
飛鳥	645	大化元	大化改新。
	649	大化5	この頃に陸奥国 ^{むつ} 建置。
	701	大宝元	大宝律令制定(律令制度の始まり)。
奈良	710	和銅3	平城京遷都。
	712	和銅5	出羽国 ^{でわ} を置く。続日本紀
	724	神亀元	陸奥国に多賀城 ^{たが} を置く(多賀城造営)。多賀城碑文
	733	天平5	出羽柵を秋田村高清水の岡に遷す(秋田城造営)。続日本紀
	752	天平宝勝4	奈良東大寺大仏開眼供養。
	759	天平宝字3	陸奥国 ^{もつ} 桃生城、出羽国雄勝城造営。続日本紀
	767	神護景雲元	伊治城 ^{こればり} 完成。続日本紀
	774	宝亀5	海道蝦夷が反乱し、桃生城を侵略(38年戦争の始まり)。続日本紀
	776	宝亀7	出羽国志波村 ^{しわ} の賊が叛逆、下総・下野・常陸等国の騎兵を發して守る。続日本紀
			陸奥の軍3,000人を發して胆沢 ^{いわけ} の賊を伐つ。続日本紀
	777	宝亀8	志波村の賊が出羽国軍と戦う。続日本紀
	780	宝亀11	伊治公 ^{あざまろ} 皆麻呂の乱、多賀城焼失。続日本紀
	781	天応元	桓武天皇即位。
	789	延暦8	巢伏村 ^{すぶせ} の戦い。阿弭流為 ^{あてるい} に朝廷軍大敗する。続日本紀
	792	延暦11	斯波村 ^{しわ} の阿奴志己 ^{あぬしこ} らが朝廷に帰属を願い出る。類聚国史
平安	794	延暦13	平安京遷都。
	797	延暦16	坂上田村麻呂 ^{さかのうえたむらもろ} が征夷大將軍となる。日本紀略
	801	延暦20	征夷大將軍坂上田村麻呂、夷賊を討伏する。日本紀略
	802	延暦21	坂上田村麻呂に胆沢城を造らせる(胆沢城造営)。阿弭流為 ^{もれ} ・母礼ら降伏。日本紀略
	803	延暦22	造志波城所へ米と塩を送る。坂上田村麻呂が造志波城使となる(志波城造営)。日本紀略
	804	延暦23	斯波(志波)城と胆沢郡の間に1駅を置く。日本後紀
	805	延暦24	徳政相論。軍事(征夷)と造作(新京造営)が停廃される。日本後紀
	808	大同3	この年までに鎮守府 ^{ちんじゅふ} が多賀城から胆沢城に移される(鎮官と国司を別任)。
	811	弘仁2	和我・荻縫 ^{わが ひえぬい} ・斯波の3郡を置く。雨薩 ^{にさつたい} ・幣伊 ^{へい} の戦い(38年戦争が終結)。日本後紀
			征夷將軍文室綿麻呂 ^{ぶんやのわたまろ} が水害を理由に志波城の移転を建議。日本後紀
	812	弘仁3	この頃に徳丹城 ^{とくだん} 造営。
	814	弘仁5	胆沢・徳丹2城は国府より遠いため、備えとして糒と塩を置く(徳丹城初見)。日本後紀
	830	天長7	出羽国で大地震、秋田城倒壊する。類聚国史
	869	貞観11	陸奥国で大地震、多賀城倒壊する。日本三大実録
	878	元慶2	秋田城下の夷俘が反乱(元慶の乱)。日本三大実録